



自然光にあふれ、エコにも配慮した、安心の地域医療を支援する病院づくり。



婦人科病棟・産科の個室。トイレ・シャワーユニットや、車いすでも使いやすい洗面台などが設けられている。床材は巻き上げているため、清掃しやすい。病室の個室率は39%。

佐久総合病院 佐久医療センターは、専門医療と救急・急性期医療に特化した、佐久地域初の紹介型病院として2014年3月にオープン。「地域医療支援病院」をめざし、他の医療機関や医師と連携して、地域全体の医療レベルを高めながら、みんなで支える安心の医療体制を確立しようとしています。地域に開かれた病院は、さまざまなエコロジー技術を取り入れたエコホスピタルでもあり、環境負荷の低減に配慮した病院づくりのモデルとしても注目されています。

花びらをイメージした病棟の設計によって、目の行き届きやすい、明るい病室を創造。

佐久医療センターの建物はとても個性的で、病棟は上から見ると桜の花びらの形(次ページ平面図参照)。スタッフステーションを各病棟の中央に配置しているため、左右いずれの病棟でも、遠くまで目が行き届くようになっています。

エコホスピタルとしてのさまざまな側面もあり、晴天率の高い佐久地域の太陽光を利用したソーラー発電が活躍しています。また、一年中一定の温度を保っている井水を、冷房機器の冷却やトイレの洗浄水などに再々利用まで含めて有効活用。さらに、建物の各所に設けられた吹き抜けが、採光性を高めるとともに、地熱を利用して病院内の空調エネルギーの低減をはかっています。

また、「ふれあいギャラリー」「いこいの広場」などの展示・発表スペースを設け、地域の文化交流の場としても活用されています。



左側が外来棟と診療棟、右側が病棟である。



スタッフステーションからの見渡しのよい病棟。

【佐久総合病院 佐久医療センター】

- 竣工年月 / 2014年2月
- 所在地 / 長野県佐久市中込3400番地28
- 施主 / JA長野厚生連
- 設計 / 株式会社日建設計
- 施工 / 清水建設株式会社
- 病床数 / 450床
- 延床面積 / 約49,800㎡

左上の写真:エスエス東京 中島真吾氏撮影



自然光にあふれた2層吹き抜けのロビー。外来は科ごとの垣根を越えたフリーアドレス制とし、プライバシーの確保に配慮するとともに、患者さんの待ち時間の短縮をはかった。天然木のルーバーには、この地域の浅間山やハケ岳などがデザインされている。



病棟1Fに設けられた、オストメイトに配慮した多機能トイレ。採尿用の窓のほか、跳ね上げ手すり、L型手すりなどが設けられている。



診療科をフリーアドレスで柔軟に使えるように、スタッフエリアの各所に設けられた汚物流し。



誰にでも使いやすいように便器の向きを変えている多機能トイレ。

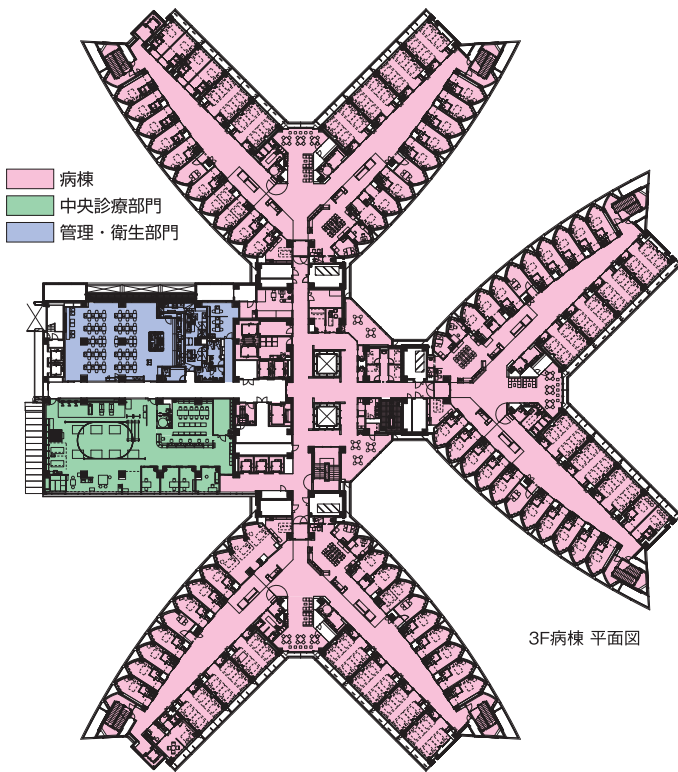
診療科によってトイレの設計を変更。 壁や床には、清掃のしやすい素材を採用。

4床室のトイレはプライバシーに配慮して廊下から入る設計にする一方、周産期病棟では安静を考えて部屋の中から入れるようにしたり、整形外科では他よりも広めのスペースを確保するなど、トイレには科の違いによる工夫が施されています。

また、日々のメンテナンスに配慮し、清掃のしやすい壁掛け大便器を採用。床材をノンワックスにしたり、床も壁も血液などが拭きやすい素材を選定しています。ややクッション性のあるソフトな床材を選ぶことで、転倒対策にも配慮されています。



外来の多機能トイレは、オストメイト対応。収納式多目的シートやベビーチェアなどが設けられている。



Voice 病院スタッフの方々の声

多くのスタッフがトイレの検討にも参加しました。



佐久総合病院 佐久医療センター
看護部長 井出洋子さん(右)
総務課 課長 木次重仁さん(中)
施設課 主任 阿部恭士さん(左)

今まで長年、急性期と慢性期の医療を両方とも佐久総合病院で行っていましたが、同じ敷地内で再構築を行ったり、全面移転するのは難しく、急性期の分割移転になりました。スタッフの再編成など、たいへんな問題をみんなでよく乗り越えてきたと思います。

新病院の敷地内にトイレも含めたモデルルームを作り、数百人のスタッフが訪れ、そこで投書された意見を検討するなど、参加型グループワーキングの積み重ねで患者さんの使いやすい空間になりました。花びら型の病棟は、スタッフステーションから全体を見渡せるし、動線が短いという大きなメリットがありますね。

Voice 設計担当の方からの声

本物志向をかなえる自然素材も取り入れました。



株式会社日建設計
設計部門
設計部 主管
漆間一浩さん

使用する素材には、かなり気を配りました。ロビーには本物の木を用いるなど、いかにも病院という雰囲気ではない、癒される空間を創造しました。病棟やパブリックの廊下の床材には天然リノリウムを採用するなど、かなり自然素材を取り入れています。また、腰壁には丈夫で耐久性の高い壁材を用いました。多機能トイレは、ほとんどオストメイトに対応しています。

建物全体で省エネにも取り組んでいますが、特に節水面では、井水利用によって大きな効果が生まれると期待しています。